

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・
薬学委員会・情報学委員会合同
バイオインフォマティクス分科会（第24期・第2回）

議 事 要 旨

- 1 日 時 令和元年12月6日（金）14:00～16:00
- 2 場 所 日本学術会議5階 5-A（1）
- 3 出席者 有田正規、岩崎渉、岡田眞里子（TV会議）、斉藤成也、
諏訪牧子、高木利久（TV会議）、徳永万喜洋、中村春木
（8名）
欠席者 上田泰己、久原哲、美宅成樹

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議題

(1) 報告事項

- ・提言「持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて」
- ・名古屋議定書におけるデジタル配列の扱いについて

(2) 審議事項

- ・生物物理学分科会との連携について
- ・バイオインフォマティクススキル標準の作成について
- ・WDS事業およびCODATA Beijing Declaration について

(3) その他

5 議事要旨

1) 提言の表出について

表出した提言が、科学新聞11月29日の1面および日経バイオテク誌12月4日号の
コラムに取り上げられたことを確認。

2) 生物多様性条約締結国会議、名古屋議定書の枠組みに対するデジタル配列の扱い

遺伝資源の提供国(開発途上国が主)から、遺伝資源に関するデジタル配列情報を
名古屋議定書の枠組みに加える趣旨の提案が出されている。名古屋議定書の対象に
なるとデジタル配列情報の利用に制限がかかり、例えばデータベース利用が有料化
する可能性が生じる。日本の立場は学術会議提言として表明済み。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t258.pdf> (日本語)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t258e.pdf> (英訳)

国際サイエンスデータ分科会CODATA小委員会からも同様の趣旨でBeijing
Declaration on Research Data (<http://www.codata.org/news/361/62/The-Beijing-Declaration-on-Research-Data>) に関する意思を表出予定。本分科会もこれを支援。

3) バイオインフォマティクスのスキル標準

(独)情報処理推進機構(IPA)による「ITスキル標準」に準拠し、産業界向け人材
養成の基準を日本バイオインフォマティクス学会、日本オミックス医学会主導で作
成(参考資料)。スキル標準の内容について分野分類や、各分野における必要なス
キル、修得レベル付けとの関連性、妥当性等について意見交換。

スキル標準は、各分野での特質も考慮し、普遍的、俯瞰的に議論する必要がある。
例えばシンポジウムの開催。3月23日の生物物理学・IUPAB分科会に、本議題を提出・
提案。また生物物理学学会の理事会においても本スキル標準を議論してもらう。

4) バイオインフォマティクス分科会、生物物理・IUPAB分科会合同シンポジウム

公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」

日 時：令和 2年 3月 23日(月) 13:00~17:40

於 日本学術会議講堂

主旨：先端的バイオイメージング計測分野の研究者に加え数学、物理学、情報科学
などの幅広い分野の研究者を集め議論を行う。

5) バイオインフォマティクス分科会の増員に向けた方策

本分科会は参加人数が少ないため、増員に向けて議論。分科会に所属していない会員、連携会員の勧誘および半数改選に向けた新規の推薦を実施。

以上